

6 3 6 1 - 9 3 4
平成19年12月26日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成19年度病害虫発生予察注意報第11号について
平成19年度病害虫発生予察注意報第11号を発表したので送付します。

平成19年度病害虫発生予察注意報第11号

平成19年12月26日
宮 崎 県

病害虫名 うどんこ病

作物名 ピーマン

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 -

3 発生量 多

4 注意報の根拠

- 1) 12月中旬の巡回調査における発生面積率は80.0%（平年44.1%、前年84.6%）で、平年比やや多である。発病葉率は15.8%（平年4.9%、前年13.7%）で、平年より多であり、12月の数値としては過去10年間で最も高い発病葉率である。（図1，2）
- 2) 向う1か月の長期予報によると、平年と同様に晴れの日が多いと予想されており、うどんこ病の蔓延に好適な条件が続くと考えられる。

（鹿児島地方气象台 12月21日発表）

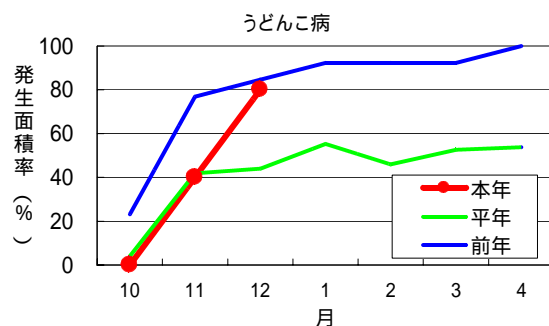


図1 発生面積率の推移

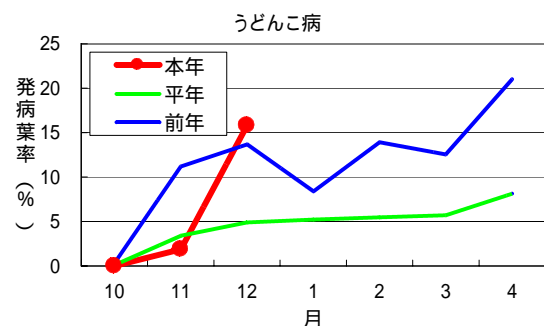


図2 発病葉率の推移

5 栽培上の注意

- 1) ピーマンうどんこ病は、気温15～28のやや乾燥した条件で発病しやすいので、ハウス内をあまり乾燥させ過ぎないように管理する。
- 2) 草勢の低下は、本病の発生・蔓延を助長するので、成りこみや収穫遅れ、追肥の遅れや灌水不足等にならないよう、栽培・肥培管理を適正に行う。

6 防除上の注意

- 1) 多発生後の防除は困難となるので、早期発見・早期防除に努める。
- 2) 上位葉への進展が見られるなど病徴の激しいほ場においては、1回散布では防除が困難なので、1週間間隔で2回以上の防除を実施する。
- 3) 微生物農薬のダクト散布等では、治療的な防除効果は期待できないので、病害の発生が増加した場合は、必ず治療効果が期待できる薬剤の散布を実施する。
- 4) ピーマンのうどんこ病菌は、他の作物のうどんこ病菌とは異なり、内部寄生性のため薬剤の効果が現れにくいので、E B I剤などの浸透移行性のある薬剤を防除体系に組み入れる。
- 5) 耐性菌の発生を防止するため、同一薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布を行う。(特にE B I剤は耐性菌ができやすいので、連続散布しない。)効果のある薬剤等防除その他の詳細については、病虫害防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、各農業改良普及センター等関係機関に照会すること。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》

病虫害防除・肥料検査センター 米良

TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-7499

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp